# ふるさと宿南

★　第１３９号　★
発行　令和　５年　２月
宿南地区自治協議会
TEL・fax:662-3400
Email：kyosyukunami@maia.eonet.ne.jp

## 体育部会・文化部会　開催

１月１２日（木）体育部会を開催しました。例年２月に開催しておりましたボウリング大会の実施について　検討を行いましたがコロナの第８波の状況では実施すべきではないという意見が多く、開催は　見送られました。また、来年度の村民号の開催日は１０月２９日（日）とし、行先は京都方面に決定しました。参加募集時には多くの皆さんの申込みをお待ちしております。

１月２７日（金）文化部会を開催しました。第１回宿南地区魅力発見フォトコンテストについて、募集から結果発表までの経過が報告され、これらの反省を踏まえて次回の開催についての検討が行われました。文化祭の代替事業として実施されたものですが、継続的な開催が望まれるとの意見が多数となり次年度も開催することになりました。なお、時期・テーマ・実施内容等は来年度の文化部会で決定します。

テーマが変更となるかもしれませんが、今から撮影して撮りためておいてはどうでしょうか。

## ふれあい喫茶ひまわり　新春イベント開催

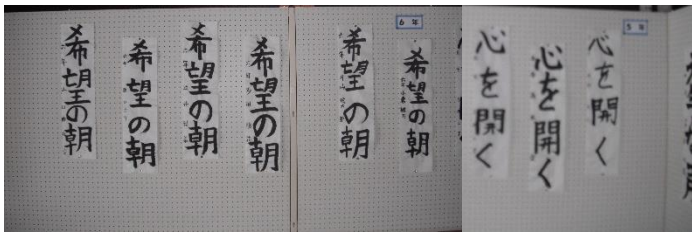
「ふれあい喫茶ひまわり」では新春イベントとして１月１６日（月）、１９日（木）は正月企画で、おしる粉・昆布茶つきのおもてなしがあり多くのお客様に利用していただきました。続く第２弾では２月２日（木）、６日（月）に節分企画、第３弾は９日（木）、１３日（月）にバレンタインデー企画を実施しました。３月にはひな祭り企画も予定されているようです。多くのみなさんにご利用いただき　たいと思いますので足をお運び下さい。

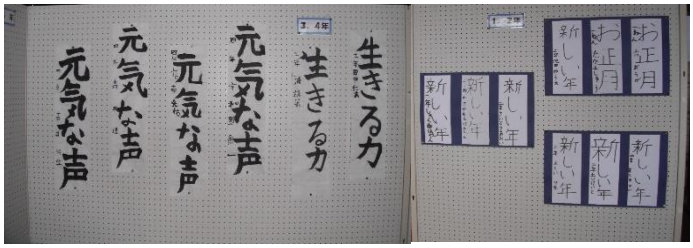
## 冬休みこども青谿書院塾と こども書き初め会　開催

冬休み最初の月曜日１２月２６日に小学生を対象とした冬休みこども青谿書院塾では宿題を持参、１月５日（木）にはこども書き初め会をふれあい倶楽部ホールで開催しました。学びの里プロジェクトメンバー・地域の方の指導により子ども達も課題に取り組みました。

## 小学校書初め作品展 開催中

宿南小学校の書初めの作品展示をふれあい倶楽部で開催しております。力作をぜひご覧下さい。



## 身近で見られる植物　㉑

**アセビ〈ツツジ科〉**

春先の早い時期に里山では一番早く花を咲かせる常緑低木です。漢字で「馬酔木」と書くように、有毒植物のため、シカの食害を受けることがなく、山の中ではよく見られます。煎じて虫除けにも使われたようです。

写真は三谷道沿いにあったものです。例年なら花芽がもっとたくさん着いて鈴なりに花を咲かせますが、今年は雪の影響か？下にいっぱい花芽が落ちていて、花付きが寂しい感じです。

## “ふれあいの日”からのお知らせ

２月の“ふれあいの日”は１５日（水）と２２日（水）の午後１時より開催します。

題材は扇型の壁かけひな飾りです。
興味のある方は気軽にお立寄り下さい。皆で楽しい時間を過ごしませんか。
３月も開催します。但し題材は変わります。

**お知らせ**

２月１７日（金）地域創生実習受け入れ（専門職大学　２年生４名）
２月２２日（水）ふれあいの日　午後１時～
※宿南地区自治協議会 662-3400 へ電話をおかけになったとき**呼び出しコール５回目以降に電話応答となります。**FAX 受信を複合機に変更のため**少しお待ちいただくことになりますがご了承をお願いします。**

## 草庵先生紹介

日記　４８

松風洞で松風の響きなどを聞きながら静かな時間を過ごす草庵

宮崎和夫さん作

青谿書院では、寮に入る塾生だけでも６０人を超えることもあった。その上に近隣から通ってくる塾生もかなりの人数がいた。書院は昼も夜も、若者たちでにぎやかだった。しかし、そんな中でも、池田草庵は日々、読書したり黙座したりして学問を深めるために努力していた。

草庵は寮を２棟新築したとき、そのうちの１棟の２階を「松風洞」と名づけた。その部屋は寮生のためというより、主に草庵自身が静かな自分の時間を過ごすために使った。そこで過ごすことができて、今まで以上に読書や黙座にも集中できたようだ。

「この日松風洞に入り、所蔵の書を広げて見る」（万延元〈１８６０〉年３月２５日）

「昼寝の後しばらくして松風洞に行き、萩浦の描いた絵をしばし観る」（文久元〈１８６１〉年５月１９日）

松風洞では、いつも１人で自分の時間を過ごすというわけではなかった。

「夜、金井勘兵衛が訪れてくれる。塾生とも話すことが多くあり、松風洞に呼んで夜更けまで小酌」（明治４〈１８７１〉年２月２７日）

松風洞に来客を招いたり、塾生を呼んだりすることもしばしばだった。その松風洞について、「今日は『松風洞記』を清書する』（安政５〈１８５８〉年５月１日）と日記にある。松風洞が完成して間もなく、「松風洞記」という文章を書いたのだ。草庵にとって松風洞が、どのようなものであったのかがよくわかる文章だ。「松風洞は、洞と言っているが木造だ。静かな洞穴のようなものなのだ。向の山は松の木が多く、ここで松風の響きを聞くと喜びでいっぱいになる。午前は書院で講義などして、午後にはここに来て日の落ちるまで出ないこともある。部屋には机一脚、黙座をするときに使う線香立てが１個ある。左右には数百冊の本が並ぶ。他の不要な物は何もない。ここで四書五経を読み、あるいは歴史書を見、私の志を思い出し、黙座して心を澄ませることができる」（「松風洞記」から）

この松風洞で、草庵は静かな自分の時間を持つことができ、学問もさらに深めていったことだろう。残念ながら松風洞や寮の建物は現在は残っていない。

池田草庵先生に学ぶ会